

---

# 老年病専門研修プログラム

---

---

東京医科歯科大学医学部附属病院老年病内科

---

作成日  
2017/07/27

## 目次

1. 理念・使命・特性	3
2. 老年病専門研修はどのように行われるのか	3
3. 専攻医の到達目標(全プログラム共通)	4
4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の修得	4
5. 学問的姿勢	4
6. 老年病専門医に必要な倫理性、社会性	4
7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方	4
8. 年次毎の研修計画	4
9. 専門医研修の評価	5
10. 専門研修プログラム管理委員会	5
11. 専攻医の就業環境	5
12. 研修プログラムの改善方法	5
13. 修了判定(全プログラム共通)	5
14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと(全プログラム共通)	5
15. 研修プログラムの施設群	5
16. 専攻医の受け入れ数	6
17. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	6
18. 専門研修指導医(全プログラム共通)	6
19. 専門研修登録システム(全プログラム共通)	6
20. 専攻医の採用方法	6

## 老年病専門研修プログラム

### 東京医科歯科大学医学部附属病院老年病専門研修プログラム

#### 1. 理念・使命・特性

高齢社会において人々が安心して加齢を迎える社会を築くために役立つ多角的な視野と感覚をもった医療者を育成する。

#### 2. 老年病専門研修はどのように行われるのか

- 1) 大学病院における体系的な知識の習得
- 2) 関連施設における臨床経験の強化
- 3) 社会人大学院として基礎研究または臨床研究に従事し視野を広げる

- 基幹施設(東京医科歯科大学医学部附属病院)での研修期間

期間: 2年程度

経験: 病棟を中心に、疾患によっては外来にて研修を行う。

- 連携施設(地域中核病院:東京都健康長寿医療センター、浴風会病院)での研修期間

期間: 1年程度

経験: 病棟を中心に、臨床経験を強化する

- 連携施設(在宅診療に携わるクリニックやリハビリテーション病院、療養病床を有する病院:浴風会病院、東京在宅ケアクリニック、文京根津クリニック等)

期間: 相談

経験: 病棟および在宅診療で臨床経験を強化し、視野を広げる

- 全期間を通じての研修

- 1) 臨床現場を離れた研修

希望に応じて東京医科歯科大学社会人大学院に入学し、基礎研究または臨床研究に従事する。

- 2) 自己学習

老年医学会、または関連する分野の学会に参加し、学術的視野を強化する。

### 3. 専攻医の到達目標(全プログラム共通)

3年間(内科・老年病混合タイプの場合は4年間)の研修期間で、以下に示す項目を完了することとする。

- 1) 老年病専門医カリキュラムに示された必須項目すべてと、必須項目以外の項目の7割以上に関して修得したことが確認できること(研修レポートと面接)。
- 2) 研修の間に、何等かの教育活動(学生対象の講義、院内セミナーや市民対象の講演を含む)を経験すること。
- 3) 学術活動として、学会発表もしくは論文発表を少なくとも1件は達成させること。

### 4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の修得

- 1) チームカンファレンスおよびチーム回診(毎日)
- 2) 老年病内科としての全体カンファレンス(週1)
- 3) クリニカルカンファレンス、総合機能評価カンファレンス、認知症ケアカンファレンス(いずれも併せて週1)

### 5. 学問的姿勢

年1回の老年医学会学術集会ならびに年2回の同学会地方会に参加  
そのほか、関連する学会に参加

### 6. 老年病専門医に必要な倫理性、社会性

老年病の対象患者は高齢かつ多彩な疾患や病態、社会的背景を持つ。最新の医療が最善とは限らないため、倫理的配慮を常に意識して診療を行う姿勢が求められる。また、医療現場や学会、大学院等で得られた技能や知識は、社会性の高いものであるため、啓発活動・学術的活動等を通じて還元することが望まれる。

### 7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

大学病院で多く経験される集約的な診療だけではなく、患者の背景や環境条件によって最善の医療とは何かを常に意識し、経験を強化することが望まれる。それを通じて、地域医療の現場では、より良い診療として還元される。

### 8. 年次毎の研修計画

#### 基本コース

- 1年目 大学病院
- 2年目 大学病院
- 3年目 関連施設
- (4年目 )

※本人の希望や教室の人員配置により年度ごとに相談して決めることになる。

## 9. 専門医研修の評価

### 1) 形成的評価

カンファレンスにおけるプレゼンテーションや病歴要約、学会発表の内容で評価される。

### 2) 総括的評価(全プログラム共通)

13. 修了判定を参照。

## 10. 専門研修プログラム管理委員会

東京医科歯科大学医学部附属病院研修センターの定めるところによる。

## 11. 専攻医の就業環境

東京医科歯科大学医学部附属病院研修センターの定めるところによる。

## 12. 研修プログラムの改善方法

本人の希望や教室の人員配置により年度ごとに相談して決めることになる。

## 13. 修了判定(全プログラム共通)

以下について、研修プログラム管理委員会が確認したうえで、日本老年医学会専門医制度委員会にて審査を行い、修了を判定する。

- 1) 老年病専門医カリキュラム必須項目すべてと、必須項目以外の項目の7割以上について修得したか(研修レポートと面接試験で評価)
- 2) 研修期間中に、何等かの教育活動(学生対象の講義、院内セミナーや市民対象の講演を含む)を経験したか
- 3) 学術活動として、学会発表もしくは論文発表を少なくとも1件は達成させたか

## 14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと(全プログラム共通)

専攻医は、老年病専門医認定申請年度の12月末までにプログラム管理委員会を通して日本老年医学会の専門医制度委員会まで様式〇〇(未定:研修レポート、学会発表数、学術論文発表数、教育的活動についての書類)を送付すること。その後、専攻医は、専門医制度委員会により、研修レポートおよび学会発表、学術論文発表、教育的活動についての書類審査を受け、専門医制度委員会により1-3月に開催される面接試験の受験資格が与えられる。

## 15. 研修プログラムの施設群

以下の施設で研修施設群を構成する。

- 基幹施設:東京医科歯科大学医学部附属病院
- 連携施設
  - ・ 地域中核病院:東京都健康長寿医療センター(東京)、浴風会病院(東京)
  - ・ 在宅診療に携わるクリニック:文京根津クリニック(東京)、東京在宅ケアクリニック(東京)
  - ・ リハビリテーション病院:浴風会病院(東京)
  - ・ 療養型病床や連携する施設を有する病院、浴風会病院(東京)

## 16. 専攻医の受け入れ数

本プログラムには、5名の指導医がおり、プログラムとして1年で最大5名の専攻医を新規に受け入れる。

## 17. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

- 1) 産休、育休による休止、中断
- 2) 留学による休止、中断
- 3) その他、本人の個別理由によるプログラムの修正等

## 18. 専門研修指導医(全プログラム共通)

日本老年医学会が定める専門研修指導医の要件は以下の通りである。

### 【必須要件】

- 1) 専門医を育成するための、高齢者の医療に関する豊富な学識と経験を有すること。
- 2) 原則として、申請時において専門医資格を1回以上更新していること。
- 3) 原則として、専門医取得後に老年病学に関する研究論文(原著・総説・症例報告)を1編以上発表していること。

## 19. 専門研修登録システム(全プログラム共通)

専攻医は別添えの専門研修登録システムに、担当した症例を登録し、加えて、老年病専門医カリキュラムに記載されている事項のなかで、実践し修得した項をチェックする。指導医は記入された別添えの専門研修登録システムを定期的に確認し、フィードバックを専攻医に与える。

## 20. 専攻医の採用方法

書類選考および面接を行う。